

# はくぶつかんの 部屋 10 ～町中に眠る歴史～



アフィー、アフィー！そのむかし、沖縄で、こんな汽笛の音を響かせながら汽車が走っていたことをご存知ですか。

この汽車の名称は沖縄県営鉄道、通称は軽便鉄道

です。那覇駅を起点とする与那原線・嘉手納線・糸満線の三路線があり、宜野湾村（当時）を通っていた嘉手納線は一九二二（大正一一年）の開業です。村内には大謝名・真志喜・大山の三つの駅がありました。大謝名と真志喜は駅員がない無人駅でした。

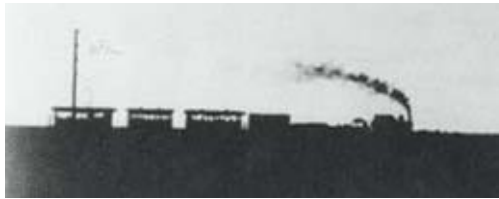
村内の駅の中でも一番にぎやかだったのは大山駅です。村内に敷かれたトロッコ軌道で集めたサトウキビが積み込まれ、嘉手納にあった製糖工場へと運ばれていました。また、朝8時から夜10時まで、駅と普天間の間を6人乗りの客馬車が汽車の発着時間に合わせて営業していました。

この軽便鉄道は、一九四五（昭和二〇）年の沖縄戦の直前まで運行されましたが、激しい地上戦により施設や車輛は破壊され、復活す

ることはありませんでした。

姿を消した軽便鉄道ですが、現在でもその面影に出会うことができます。博物館では、約30年前に大山で地中から発見された客車の台車を展示しています。また、戦前とはすっかり変わった現在の町並みの中にも、当時がしのばれる場所が残っています。

例えば、現在は道路となつていますが、路線の跡が大謝名・真志喜・大山・伊佐に残っています。みなさんも身近にある歴史と文化に親しんでみませんか。



▲煙をあげて走る軽便鉄道  
【加田芳英「図説沖縄の鉄道」  
（ポーターインク、2003）】



◀大山で発見された  
軽便鉄道の台車  
【市立博物館】

## 問合せ

市立博物館 ☎870-9317

## 茶

# ぐわーゆんたく

102

## ウフグティー岩〜野嵩の守り神〜

中城村との境界にある野嵩霊園の東の淵に、黒い大きな岩があります。野嵩ではこの岩をウフグティー（大牡牛）と呼び、次のような話が伝わっています。

「中城村新垣にアラカチガンワーという岩があり、そのアラカチガンワーが野嵩に向かって吠えるとき、野嵩に病気が流行した。そのとき、空からウフグティーが落ちてきて、アラカチガンワーに向かって吠えたので、アラカチガンワーはそれ以後吠えなくなり、病気もなくなった」という内容です。

また、「新垣に向かって野嵩のウフグティーが吠えるので、新垣はガンワーをつくった」という反対の話や「アラカチガンワーの効き目がなく、新垣の人々がおし寄せ、ウフグ



▲1980年頃のウフグティー岩



▲現在のウフグティー岩

『宜野湾市史』への問合せ  
文化課 市史編集係（市立博物館内）  
☎870-9317

※宜野湾市制50周年記念写真集に掲載する写真を募集しています！  
1962（昭和37）年前後の写真をお持ちの方はご一報ください。

ティー岩を割った」というような話も伝わっています。このウフグティーの岩は、元は現在地より数十メートル西側にありましたが、区画整理で移動されました。以前は牛が座っているように見えたそうですが、移動させるときに置き方を違えたのか、今は牛の形には見えなくなっているといえます。それでも今なお、野嵩の端で目を光らせています。

集落の端に置かれた1つの岩にも、いろいろなバリエーションの話が伝わっています。皆さんの身の回りにも、まだまだこのような隠れた史跡があるかもしれません。

